

宗源寺のラカンマキ



〔指定年月日〕平成七年一月二十九日
〔種別〕天然記念物（植物）
〔名称〕宗源寺のラカンマキ
〔点数〕一本
〔所有者等〕宗源寺
〔所在地等〕下高井戸四―二―三

宗源寺のラカンマキ

ラカンマキはマキ科マキ属雌雄異株の常緑樹で中国から伝来したものである。我が国の暖地に生じ、葉が密生しているのでミカン畑の防風垣や庭木などによく用いられている。

羅漢^Ⅱラカン^Ⅱと呼ばれるのは、果実と花床を羅漢の首と胴に見たてたからと言われている。また、種子の形が坊主頭なのを、まだ仏になりきらない羅漢にたとえたものとも言われている。

本ラカンマキは雄株で、目測樹高九・〇〇m、胸高周囲二・一五m、根本周囲二・七五m、枝張り東西一三・〇〇m、南北一四・〇〇m、樹齢はおよそ三五〇年と推定されている。宗源寺開創時代に植えられたものではないかと言われているが明らかではない。

樹冠の面積は南側の枝の横に添え木を施し、支柱が設けられていることもあり、南の方に広がり臥童型になっている。従って樹高はラカンマキの中で高い方ではないが、太さは都内区部のものとしては群を抜いている。

甲州街道の近くにあるにもかかわらず、樹勢も保存状況も良好である。

都内ラカンマキの大樹は極めて少なく、同樹種としては樹勢も太さも群を抜いており大変貴重である。

【文化財所在地】

